

手段と目的をはき違えないためには？ 《行政課題解決セミナー》

「手段」と「目的」は言葉の意味が違うのは明らかですが、プロジェクトを始めると気が付いてみると「手段」が目的化してしまうことはよくあること。

例えば世間をにぎわせているDXは手段でしょうか？目的でしょうか？

本当に大事なものは目的であり『ザ・ゴール』を設定しない限り手段が目的を達成したかどうかもわかりません。

今回のワークショップでは「手段」が「目的」となっている場合のシンプルな立て直し方と、「目的」を達成する「手段」を考えるプロセスについて、TOC流の実践ワークショップで学んでいただきたいと思います。(講師メッセージより)

《ワークショップレポート》

今回のワークショップでは、UR川口芝園団地での多文化・多世代共生型こども食堂「世界料理厨房」について議論しました。川口芝園団地は約2,500世帯が住み、その半数は中国人で、日本人の居住者は超高齢化が進んでおり、日本人と中国人のコミュニティの分断が課題となっています。コミュニティの再構築も目標として世界料理厨房が立ち上がりましたが、芝園団地内で自立して運営してもらうためにも、日本人、中国人の住人それぞれから、世界料理厨房のリーダーを見つけるにはどうすればいいか…。運営に携わる川口こども食堂の佐藤さんはモヤモヤされていました。

上司に提案したときに「それって、そもそもの目的って何？」って言われたことありませんか？優秀な人でも、目的を忘れてしまう。目的がわからなければ、生産性が上がったのかもわかりません。

講師・ファシリテーター 岸良裕司



株式会社Goldratt Japan CEO。
全体最適のマネジメントサイエンスであるTOC (Theory Of Constraint:制約理論) をあらゆる産業界、行政改革で実践。最先端のTOC知識体系の、「楽しく」、「わかりやすく」、「実践的」な講義と、参加者をワークに集中させるファシリテーションから、たくさんの学びが得られると大好評である。

岸良さんの解説から、プロジェクトの目的(Objectives)・成果物(Deliverables)・成功基準(Success Criteria)を明確にして、目標をすり合わせる、ODSCのワークショップが始まりました。岸良さんの質問に答えて、ODSCが纏まっています。

・発言された言葉をそのまま書くのがコツ。自分の言葉がそのまま書かれることで、モチベーションが高まる。

・発言を合わせたり、重ねたりするのはOK

岸良さんから次々にファシリテートのコツが伝授されます。

チームでやって、相手の言葉が入ると、モチベーションが高まります。また、経営理念や社会貢献の言葉が入ると、協力を得やすくなります。

参加者の皆様の知恵を集めて、ODSC「川口発 ワクワクハッピーに人が集まるインターナショナルコミュニティ」が完成しました。

《今回の学び》

皆さまのアイデアで、子供食堂という既存の枠が外れて、高い目標が出来上がる様子が、ワクワクするものでした。チームでODSCを作成して、目標が出来上がるワクワクする過程を共有することで、メンバーとの一体感が生まれて、プロジェクトの加速が期待できそうです。

《他の発表》

◆「北九州市役所で実践中のWIPボード×集中タイム事例」
北九州市産業経済局次世代産業推進課 三浦さん



全体最適の行政マネジメント研究会について

・全体最適のマネジメント理論TOC(制約理論)を活用し、「お金を使わず知恵を使って」を合言葉に、行政、民間の参加者が垣根を越えて、日本をよくするために知恵を出し合い、問題解決に取り組むNPO法人。そのセミナーは、身近な行政課題を題材に、TOCを実践的に学べる場となっている。

・次のセミナーは2022年9月10日です！！

<https://www.kokuchpro.com/event/20220910tocgyousei/>